

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部

優 秀 賞

「私の尊敬する人とこれからの建設」

愛知県立愛知総合工科高等学校 建設科2年
鈴木英斗

私の尊敬している人は祖父と父です。私の祖父は大工として住宅の図面を書いたり、現役を引退した後も自宅で修理が必要な箇所があれば自ら進んで修繕したりしています。そんな祖父が現役で働いていた時の話を最近よく私に話してくれるようになり、建築に興味を持つようになりました。その中で私が惹かれた話を紹介します。

それは、祖父が遊び心で設計されたものにアレンジを加えたお寺があり、その遊び心のおかげで完成したものがより良くなったという話です。図面や書類にもこの記録はなく、祖父だけが知っている秘密であり、私はこの話を聞き、遊び心と柔軟な発想力が良い建築物を造ることに繋がると知りました。

そして、祖父と同じく建設業に携わっているのが私の父です。父は土木の現場監督をしており、主に橋脚施工に携わっています。仕事上、全国各地の様々な現場に行くことが多く、大きな現場だと長期間滞在することもあります。すると、その土地の名産や現場周辺の知識が増えるようで、父の博識ぶりに驚かされるとともに、そんな父に憧れを抱くようになりました。また、建設業は仕事を行う上で資格が必要となる業種であり、父は普段から忙しく仕事をしながら、休日の朝や仕事終わりの時間を使って合格のために必死に資格試験の勉強していました。そんな父の姿はとても格好良く、私も父のように将来は建設業を通して立派な人間になりたいと思い、日々学習に努めてきました。

さらに、昔から自分が手掛けた現場を私や家族に見せたいと祖父と父が口を揃えて言っていたことを覚えています。建設業は地図に残る仕事と言われるように、スケールの大きな仕事であるとともに自分の仕事に対して誇りを持って取り組む二人を尊敬しています。

そんな憧れを持って飛び込んだ建設の世界ですが、専門知識を学ぶ中で、近年では商業施設や集合住宅など、様々な施設でバリアフリーを導入していくことが重要だと知りました。また、少子高齢化に合わせて、学校などの施設を老若男女問わず地域の人と触れ合える憩いの場にする必要があると知りました。さらに、建築分野以外にも橋脚や駅舎などにもバリアフリーを導入し、誰もがより使いやすく、よ

り快適に改善していくことが求められます。

ところが、人々にとって過ごしやすい環境を整備していく一方で、道路や建築物が増え、野生動物たちの生態系を乱していることが問題にあります。そこで、今後の建設に求められる課題として、人と自然が共存する建設の在り方について考えていくことが必要です。さらに、地球温暖化に伴い、自然災害による人的被害が増加していることを考えると、自然災害などから私たち人間を守っていけるような構造物を造ることが必要です。

このように、私はこれからの建設業は既存のものを残しつつ、自然との共存に努めた取組が建設業には必要であると考えています。その中で、バリアフリーに配慮しつつ、誰もが使いやすい建築物などを作っていくことが急務であると感じています。そして、バリアフリーに配慮することが世の中で当たり前になる未来を私自身の手で築き上げていきたいと思えます。

最後に、建設に従事する者として今後の未来を切り拓いていくためには、建設について多くのことを学び、今、建設業に何が求められているかを客観的に広い視野を持つことが重要であると知りました。また、併せて祖父や父から学んだ建設業に従事する者としての心構えをしっかりと持ち続けていきたいと思えます。そして、社会に出た際には誰からも頼りにされる人材として活躍していきたいです。